

第27回

ふるさと イベント 大賞

各賞決定

EVENT
MAP



わらアートまつり

③ 上堰湯公園
(新潟県新潟市)

広大な水田が広がる米どころ新潟市に西蒲区を舞台に、稲わらで作った巨大なオブジェを複数展示しています。稲わらの温かさと懐かしさ、そして迫力と躍動感あふれるアート作品が楽しめます。

第3回小倉城竹あかり

④ 小倉城・虎ノ門周辺
(福岡県北九州市)

放置竹林の環境問題を市民に啓発する目的で、竹を伐採し竹灯籠に形を変え、小倉城に幻想的な景観を創り出しています。日本新三大夜景都市に認定されている北九州市で、中心市街地の回遊性・賑わいを演出し、北九州市を代表する秋冬の風物詩になることを目指しています。

吉田皿屋ひかりぼし

⑤ 吉田皿屋地区 (佐賀県嬉野市)

400年の歴史を誇る「肥前吉田焼」の認知度向上やファンの獲得はもちろん、嬉野や近隣に住む子供たちの感受性を育むようなアートイベントにしたいと願い始まったプロジェクトです。有田や伊万里、波佐見といった近隣の大きな産地と差別化し、小さな産地だからこそできることを心掛けています。

選考委員特別賞

全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会
(書道パフォーマンス甲子園)

⑧ 伊予三島運動公園体育館
(愛媛県四国中央市)

日本一の紙のまち四国中央市で、書道パフォーマンスの高校日本一を決める大会です。高校生が音楽に合わせて趣向を凝らしたパフォーマンスをしながら、巨大な紙に伝えたい思いを綴ります。究極の青春と感動に溢れる大会です。



GOOD DESIGN AWARD 2022

高岡クラフト市場街
11年のキセキ？
いや、軌跡。

祝



11年

大賞

いちばまち 市場街 (高岡クラフト市場街)

内閣総理大臣賞

① 高岡中心市街地ほか (富山県高岡市)

市場街 (高岡クラフト市場街) は、高岡中心市街地において、毎年秋頃に開催する「クラフト」をテーマとしたイベントです。平成28年からは「工芸都市高岡の秋」に拡大、令和2年からはオンラインプログラム「市場街TV」を立ち上げています。

最優秀賞

総務大臣表彰

② 小湊鉄道を軸とした
周辺エリア
(千葉県市原市)

市原市の豊かな自然などの地域資源とアートを融合させ、アートによるまちづくりに取り組んでいます。関東一週紅葉に染まった里山を舞台に開催した今回の芸術祭は、70組のアーティストにより90を数えるアート作品を出展しました。

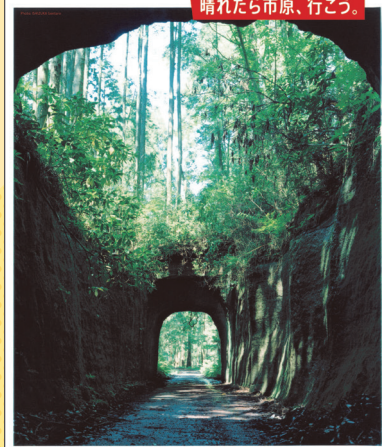
房総里山芸術祭

いちばらアート×ミックス2020+

房総里山芸術祭

ICHIHARA ART×MIX 2020+

晴れたら市原、行こう。



ふるさとキラリ賞



ぎょうだはなちようず

行田花手水 week 及び希望の光

⑥ 忍城址、行田八幡神社、忍城址と行田八幡神社
周辺エリアの商店・民家、前玉神社
(埼玉県行田市)

「コロナ禍での来訪者に癒しを」との想いから「行田花手水」が始まりました。神社だけでなく、行田のシンボル「忍城」や商店、民家等約100箇所に飾られた花手水が毎月2週間限定でまちを華やかに彩ります。また、毎月一夜限定のライトアップでは、来訪者の心に希望の光を灯します。

てめぐいひらひら

⑦ 海とくらしの史料館 (鳥取県境港市)

境港市の伝統的地域資源である「伯州綿」をPRするために、平成29年から毎年秋に開催しています。伯州綿を使って製作した手ぬぐいと、全国各地から集めた130種超の手ぬぐいを「ひらひら」と展示するイベントです。





ひとの 思い がイベントを 創る

「ふるさとイベント大賞」は、全国各地で数多く開催されている地域の活力を生み出すイベントを表彰し、全国に向けて紹介することによって、ふるさとイベントの更なる発展を応援することを目的に設けられた賞です。

今回で27回目を迎え、第26回までに、194の個性豊かなイベントを表彰しています。

今後も、ふるさとイベントの創造・発展を促すことで、地域固有の風土・伝統・暮らしを守るとともに、地域に対する愛着と誇りを育み、内外との交流につながる地域の活性化を目指しています。

主 催 ● 一般財団法人地域活性化センター

● 応募対象イベント

令和3年7月1日から令和4年6月30日までに市区町村（広域を含む）で開催されたイベントとします。

※現在の状況を考慮し、オンライン開催も対象とします。また、規模の縮小や内容の変更などがある場合でも、イベントを継続することで、そのイベントが本来持つ意味を伝えようと創意工夫を凝らしているものも含まれます。

以下のいずれかに該当するイベントは対象外とします。

- ①直近の5回（第22回～第26回）に大賞、最優秀賞等各賞を受賞したイベント
- ②継続性がなく1回の開催のみで終了するイベント

● 選考過程

イベント主催団体から、市区町村等を通じ、都道府県へ応募書類を提出していただきました。今回の応募総数は66件でした。

応募されたイベントについては、イベントプロデューサーや学識経験者等により構成される「第27回ふるさとイベント大賞選考委員会」において、厳正な審査を行い、受賞イベントを決定しました。

● 選考基準（評価のポイント）

企 画

- 地域資源を積極的に活用している。（地域資源：風土、産業、食文化、伝統文化、歴史、特産物、建築物・構造物など）
- 独創性に溢れ、新たな地域の魅力を創り出している。
- 多くの人を惹きつける魅力がある。
- 魅力を増すための創意工夫が顕著である。

運 営

- 地場産業の振興や観光客誘致など、経済的な波及効果がある。（低予算でも波及効果が大きいなど）
- 地域の知名度アップに貢献している。
- 地域住民の郷土意識の高揚に繋がっている。
- 伝統文化の継承や新しい文化の創造に繋がっている。

効 果

- 地域住民が積極的に参加している。（参加することに誇りを持っている。）
- 地域の内外を問わず、交流や連携が行われている。
- 継続して開催されており（継続される見込みがあり）、将来の発展性が見られる。

選考委員長



きたがわ フラム
アートディレクター
株式会社アートフロントギャラリー
代表取締役

【撮影：山本マオ】

今回のふるさとイベント大賞では、いつにも増して地域の特徴を活かしたプロジェクトに脚光が当てられました。400年に及ぶ銅器、漆器制作の富山県高岡市では伝統工芸を含むクラフトの職人たちに、千葉県市原市では過疎化する里山地域の廃校、鉄道の魅力に、稲作の新潟市の西蒲区ではその稲藁に、北九州市の小倉では放置される竹林に、佐賀県は嬉野市の窯業地吉田では廃棄される窯道具にというふうにです。特産の影の部分に着眼することにより全体を賞揚するという新鮮な試みが登場してきたことは嬉しいことです。

埼玉県行田市の「花手水」や鳥取県境港市の「手ぬぐいひらひら」も地域の特色を小粋に鮮やかに見せてくれるイベントですし、愛媛県は四国中央市三島高校の突出した部活動「書道パフォーマンス甲子園」が地域の資源である紙をひっぱりだすという効果も生んでいます。一地域の特性を活かした生業と結びついてそれぞれの場所での意欲的な活動が成果を生んでいるという例が良くわかった今回の審査でした。

選 考 委 員



うちハラ ちとし
内原 智史
ライティングデザイナー
有限会社
内原智史デザイン事務所
代表取締役



かえで ちさと
楓 千里
國學院大學
観光まちづくり学部
教授



かくた みつよ
角田 光代
作家
【撮影：垂見健吾】



よしもと みつひろ
吉本 光宏
株式会社
ニッセイ基礎研究所
研究理事



いずた けいぞう
出田 恵三
日本放送協会
制作局
制作主幹



なかじま まさのぶ
中島 正信
全国知事会事務総長



おおむら しんいち
大村 慎一
総務省大臣官房
地域力創造審議官



しいかわ しのぶ
椎川 忍
一般財団法人
地域活性化センター
理事長

